

# ひがしよどがわ魅力発見プロジェクト

見ず  
みずにはいられない  
水

くにじま

# 淀川のほとりのまち 柴島の歴史



## ① 柴島浄水場・水道記念館



古写真「大阪上水道源地」(大阪市立中央図書館デジタルアーカイブより)

### 柴島浄水場

1895年(明治28年)大阪市は水道事業を始め、1914年(大正3年)3月に、当時東洋一といわれた「柴島水源地」が完成した。市の発展に伴い何度も水道拡張事業が行われ、浄水処理方法も進化し現在の「柴島浄水場」に至っている。現在は、1日に118万m<sup>3</sup>の水を給水している。名称も「柴島水源地」から「柴島浄水場」となり、より安全良質でおいしい水が供給されている。

この浄水場の真ん中を阪急電車千里線と道路が通っている。阪急電車をはさんで道路と反対側、電車とスレスレに歩行者用道路が設けられており、通学路にもなっている。現在この歩行者用道路の片側は電車、もう一方の側には野球場とテニスコートが眺められるが、かつては沈殿池などが広がり、小中学生は濁った水をたえた池を眺めて通学した。



水道記念館

赤レンガと御影石の調和した美しい外観、建物正面の優美なアーチ、浄水場の芝生の緑に映えるネオ・ルネサンス様式のこの建物は、「水道記念館」である。もとは1914年(大正3年)「柴島水源地」開設時の「第1配水ポンプ場」(建築家宗兵衛設計)である。1986年(昭和61年)に新しいポンプ場完成によりその役目を終え、1995年(平成7年)に水道記念館として再出発した。現存する大阪市の水道施設のなかでは最も古く、水道の歴史を物語るものとして市水道のシンボリック存在となっている。



梅田あたりのビル群



生駒の山並み

東淀川区の南は端から端まで淀川である。日々淀川を身近に感じている。春夏秋冬いずれの季節も、夜明けから日の入りまでいずれの時間帯も淀川を楽しむことができる。広い河川敷と其上に広がる半円の大空、ゆったりとした川の流れ、対岸のビル群、はるかに望む生駒連山、淀川の魅力は尽きない。現在の淀川は明治時代に改修された流れであり、淀川の歴史をたどる楽しみもある。

## 柴島駅



現在の柴島駅



柴島駅の完成予想図(大阪市パンフレットより)

### 柴島駅

この地域の玄関口、柴島駅は1925年(大正14年)に当時の新京阪鉄道が天神橋駅(現在の天神橋筋六丁目駅)から淡路駅間を開通させた際に同時に開業しました。当初は柴島の集落を貫いて建設される予定でしたが、浄水場の拡張に合わせて現在のルートが選ばれました。1979年(昭和54年)には淀川の治水対策の一環で、淀川橋梁が架け替えられました。

現在、この付近では現在線而走らせながらその横に約8mの高さで高架化の工事中で、現在の上下別ホームから同一ホームになり、高架切替を2029年(令和11年)、道路整備も含めた事業完了は2032年(令和14年)の予定です。